

委員会先進地視察報告

3つの常任委員会では、所管する部門における市政の重要課題について分析や理解を深め、執行機関の監視機能の強化を図るため、所管事務調査を実施しております。その中で、他市の先進事例を学ぶために、それぞれの常任委員会が視察研修を行いましたので報告いたします。

議会改革推進特別委員会においても、視察研修を行いましたのであわせて報告いたします。

なお、議会図書室や市議会ホームページにて、視察報告をご覧ください。

総務常任委員会

- 習志野市「公会計が自治体を変える！習志野市の公会計改革」
- 和光市「健全な財政運営に関する条例に基づく財政運営について」

習志野市では、経営改革を進める中で、これまでの地方自治体の現金主義、単式簿記の会計から財務情報を総合的かつ網羅的に把握する公会計制度の整備を進めておられます。本制度導入によって、資産や債務等に関する適切な管理を進め、市民へのより正確な情報の開示と、効率的かつ効果的に税を使うことの重要性を再認識しました。

和光市では、将来の人口減少、少子高齢化社会に備え、健全な財政運営に関する条例を制定し、将来を見据えた財政運営に取り組んでおられます。本条例には資産と負債による将来への財政負担を膨らませないための規定が盛り込まれ、市の事業および財政状況について市民の理解を高めるとともに、職員の自覚を促す役割を果たしています。

文教厚生常任委員会

- 多摩市「地域子ども・子育て支援事業について」
- こどものもり（埼玉県北葛飾郡松伏町）「こどものもりについて」

多摩市では、子育て世帯に対して専門職等が必要なサービスをコーディネートし、切れ目のない支援を実施するワンストップ拠点の整備や子ども家庭サポーター派遣事業など、全国的にも珍しい取り組みを進めておられます。本市においても、安心して子どもを生き育てることができる環境の整備を進める必要性を再認識しました。

認定こども園こどものもりは、こども園という概念がなかったころから、幼保一体化を実現し、認定こども園をリードする園として活躍してこられました。本園では、異年齢時保育やクラス担当制などを実施し、子どもを中心として、質の高い就学前教育や保育に取り組まれています。

産業建設常任委員会

- 野田市「コミュニティバス「まめバス」について」
- 厚木市「連節バス運行システム導入補助金について」
- 「コミュニティ交通導入の支援について」

野田市では、公共施設へのアクセス性を高めることなどを目的に平成16年からコミュニティバスの運行を開始され、予想を上回る利用がありました。成功の要因としては、幅広い利用者を集める病院や商店を運行ルートに取り込んだことやユニークなデザイン、100円という運賃設定などが挙げられ、本市においても参考となる取り組みでした。

厚木市では、バス停での乗りあふれ問題が深刻化していたことから、新しい公共交通として、平成19年に連節バスを導入されました。また、信号機を制御するPTPSや鉄道との連携を強化する乗り継ぎ情報システムも併せて導入され、これらの一体的な活用により、便利で快適な交通ネットワークを構築されています。

議会改革推進特別委員会

- 富田林市「議員定数・議員報酬について」
- 河内長野市「議員定数・議員報酬について」

富田林市、河内長野市は、全国において本市と人口規模や産業構造の類似した市（類似団体）の中で、議員定数が19人、18人と少なく、一方で議員報酬が多い市です。富田林市議会は、財政事情や近隣市の動向が主な変更理由であり、草津市の状況とは異なるところはありますが、議会運営の根幹を成す議員定数について、議員発意により提案されたことや、委員会のみな

らず本会議においても全議員で議論を尽くされたことは、見習うべき姿勢であると思います。河内長野市議会は、定数削減を求める請願を背景とする受動的な定数削減を実施されており、削減後は、特別全員協議会における議員間討議や、議員活動の充実など、議員力の向上を目指した取り組みや姿勢は、学ぶべきところであると思います。